

關 西 大 學

# 經 濟 論 集

自 第 一 卷      至 第 十 卷

自 昭 和 34 年      至 昭 和 35 年

關 西 大 學 經 濟 學 會

「関西  
大学 経済論集」 総目次 (第一卷—第十卷)

第一卷 第一号 (昭和二十五年十一月)

三谷友吉	古典学者の雇用理論 (I)	一—三頁
高木秀玄	覚書「エコノメトリックスの基本的性格とその方法」	三—七頁
加藤由次郎	経済学範疇論の問題	三—九頁
松原藤由	戦後わが国鉱工業生産の現実	九—一〇五頁

第二号 (昭和二十六年六月)

三谷友、吉	古典学者の雇用理論 (II)	一—二四頁
河野稔	ハイマン「社会政策本質論」に関する若干の考察	三—五〇頁
杉原四郎	—— (一) 社会政策の保守的—革命的二重性について — 労働の自己疎外とその止揚	三—六頁
賀屋俊雄	—— マルクス「経済学、哲学草稿」と「資本論」 —— 商業荷為替信用状に関する国際統一規則に就いて	六—一八頁
富山忠三	CPA 試験問題の作成及び採点に就いて	六—一九頁

第三、四合併号 (昭和二十六年十月)

矢口孝次郎	イギリス資本主義成立史上の「生産者の資本家への推転」(一)	一—一六頁
今西庄次郎	株式発行市場と流通市場の関係	一七—三三頁

鑄方貞亮 本邦古代漆作考…………… 三〇—三〇頁

——栽培の由来——

河野稔 ハイマン「社会政策本質論」に関する若干の考察…………… 三〇—三〇頁

——(一)社会政策と政治力——

澤村栄治 Resources Effect と Substitution Effect…………… 六〇—六〇頁

荒井政治 サー・ジョン・クラップム著

「英蘭銀行史」に就いて…………… 六〇—二〇頁

第二卷 第一号 (昭和二十七年二月)

河村宜介 観光事業に関する若干の考察…………… 一一—二七頁

矢口孝次郎 イギリス資本主義成立史上の「生産者の資本家の推転」(二)…………… 六〇—六〇頁

澤村栄治 ひとつの労働理論…………… 六〇—七〇頁

——W・S・ジェボンズ研究——

松原藤由 わが国中小工業の基本的問題…………… 六〇—二〇五頁

高木秀玄 R・A・フィッシャー素描…………… 一〇六—一二三頁

東井正美 R・L・コーイン著「農業経済学」…………… 二二四—二三五頁

第二号 (昭和二十七年六月)

藤谷謙二 U・ヒックスの地方税論…………… 一一—二七頁

加藤由次郎 市民社会の本質とアダム・スミスの経済思想…………… 三〇—三〇頁

矢口孝次郎 イギリス資本主義成立史上の「生産者の資本家への推転」(三)…………… 三〇—三〇頁

鯨江城夫 月賦販売について…………… 三〇—三三頁

森川 太郎 貨幣に関する二つの近業…………… 三〇九頁

第三号 (昭和二十七年十二月)

森川 太郎 我国銀行業態の分析(Ⅰ)…………… 一—三頁

——特にオーバー・ローンの問題に関連して——

杉原 四郎 マルクス剰余価値論に関する一考察…………… 二—六頁

富山 忠三 商業英語における FIGURATIVE EXPRESSION についで…………… 五—九頁

荒井 政治 産業革命期における英国農業労働者の状態…………… 一〇—二〇頁

第四号 (昭和二十八年三月)

三谷 友吉 ピグーとケインズの雇用理論…………… 一—三頁

——雇用理論の学史的研究の一部——

今西 庄次郎 商品取引所格付売買の根拠…………… 六—七頁

安田 信一 インフレ過程に於ける財貨生産についての一考察…………… 七—七頁

東井 正美 アメリカ合衆国のファーム・テニユア…………… 七—二〇頁

第三卷 第一号 (昭和二十八年七月)

河野 稔 社会政策対象論…………… 一—四頁

市原 亮平 一日本・リベラリストの経済(『社会的』「背骨」(Ⅰ))…………… 三—四頁

——武藤山治の経営実践とその時代——

安田 信一 貨幣・金融に関する最近の二文献…………… 四—六頁

柏尾 昌哉 半農半漁村に於ける 組合漁業の分析…………… 六—八頁

植野 郁太 ブレック「管理の原則」…………… 六九—七〇頁

——ブレック著「経営管理論」第三版——

第二号 (昭和二十八年九月)

経済政策論序説(その一)…………… 一一—四頁

我国銀行業態の分析(Ⅱ)…………… 三三—三九頁

——特にオーバー・ローンの問題に関連して——

日本・リベラリストの経済(——社会的)「背骨」(Ⅱ)…………… 五〇—六頁

——武藤山治の経営実践とその時代——

アンリ・ルフェーヴルのマルクス主義論…………… 六—四頁

アメリカ合衆国における家族農場テニユア問題…………… 九一—三頁

——Ackerman & Harris: Family Policyの紹介——

第三号 (昭和二十八年十月)

経済変動に於ける貨幣の作用…………… 一一—三頁

格付売買に於ける供用範囲並びに標準品…………… 三三—四五頁

——商品取引所格付売買の研究(その二)——

社会政策対象論(Ⅱ)…………… 五五—五七頁

ソヴェト・ロシアの地理的性格…………… 六—九頁

グッドウイン・非線型加速度因子と景気循環の持続…………… 九一—九三頁

植野郁太教授の近業「企業会計理論」を読む…………… 一〇—一三頁

安田 信一

今西 庄次郎

河野 稔

宇田 米夫

高本 昇

久保田 音二郎

第四号 (昭和二十九年一月)

三谷友吉	マルクスの雇用理論 (I) .....	一一九頁
	——雇用理論の学史的 연구の一部——	
高木秀玄	社会統計に付き纏う誤謬について (I) .....	三〇一頁
市原亮平	——日本・リベラリストの社会的「背骨」 (III) .....	五一一頁
	——武藤山治の「時事新報時代」と「帝人事件」——	
杉原四郎	戦後のわが国における J・S・ミル文献について (上) .....	六二〇頁

「関西大学 経済論集」特集号「商学研究」(昭和二十八年十二月)

板橋菊松	社債信託の本義と Floating Charge .....	一一八頁
今西庄次郎	格付売買に於ける格差の決定 .....	九一七頁
	——商品取引所格付売買の研究、その三——	
賀屋俊雄	海上売買に於ける物品引渡数量とその関連問題 .....	三九一頁
山崎紀男	専門店会運動の発展とその反省 .....	三九一頁
富山忠三	CPAの監査 .....	七一九頁
荒井政治	テューダー及びステュアート朝における金融業 .....	二〇一—二四頁
東井正美	アメリカ農業経営学の実践的性格 .....	二五—二五頁
	——ジョン・A・ホプキンス著「農業経営学原理」——紹介——	
鯨江城夫	株式分布状況より見たる経営者論の吟味 .....	二七—二七頁

柏尾昌哉 日本漁業における北洋の問題……………一六九—二〇〇頁

——特に再開北洋漁業をめぐって——

植野郁太 政府補助金の会計処理について……………二〇一—二二八頁

第四卷 第一号 (昭和二十九年四月)

今西庄次郎 格付売買と品質検査……………一—一七頁

——商品取引所格付売買の研究、その四——

河村宜介 アメリカのツーリスト市場の研究……………一八—三三頁

松原藤由 中小工業の組合制度……………四〇—五三頁

三谷友吉 マルクスの雇用理論(Ⅱ)……………六—一九頁

——雇用理論の学史的研究の一部——

第二号 (昭和二十九年五月)

高木秀玄 社会統計に付き纏う誤謬について(Ⅱ)……………三三—三三頁

高本昇 動態経済学に関する覚書……………三三—三五頁

市原亮平 一近畿型(水田集約)農村の人口存在形態……………一四—一九頁

——奈良県北葛城郡馬見村の実態調査——

杉原四郎 戦後我国におけるJ・S・ミル文献について(下)……………一五—二三頁

第三号 (昭和二十九年七月)

安田信一 投資の短期的作用と経済構造(Ⅰ)……………三四—四三頁

柏尾昌哉 北洋漁業の生成と発展……………四四—五三頁

有田 稔 I・M・ケインズ著「自由放任の終焉」に就いて……………二四一—二〇〇頁

第四号 (昭和二十九年八月)

安田 信一 投資の短期的作用と経済構造(Ⅱ)……………三〇一—三六頁

今西庄次郎 格付売買機関論……………三七一—三三頁

——商品取引所格付売買の研究、その五——

荒井 政治 産業革命期におけるカルテルの形態……………三三三—三五頁

——Cornish Metal Company (1785—1792) を中心として——

清水 宗一 減価償却制度の確立……………三六六—三九四頁

——George O. Mayの所説を中心として——

第五号 (昭和二十九年十月)

賀屋 俊雄 「CAF」売買に於ける「Specialisation」に就いて……………三九五—四〇頁

安田 信一 投資の短期的作用と経済構造(Ⅲ)……………四三一—四六頁

市原 亮平 阿波(旧藍作)畑作地帯人口の存在形態(Ⅰ)……………四九〇—四〇頁

——農業における資本主義の発達——

高本 昇 経済発展と雇傭……………四六三—五〇五頁

第六号 (昭和二十九年十二月)

東井 正美 アメリカ合衆国における家族農場のテニユア問題……………五〇七—五七頁

柏尾 昌哉 大平洋戦争時における「崩壊期日本漁業の実態」……………五八一—五八頁



市原亮平 阿波(旧藍作)畑作地帯人口の存在形態(Ⅱ)……………五九一—五九三頁

——農業における資本主義の発達——

酒井文雄 会計公準論の一考察……………五九四—六一五頁

——初期ペイトンの所説を中心として——

第七、八合併号 (昭和三十年二月)

(経済学史特集)

正井敬次 デビッド・ヒュームの経済論……………六二七—六三六頁

三谷友吉 ヒックスの労働需要論……………六三七—六五九頁

——雇用理論の学史的研究の一部——

杉原四郎 マルクス経済学形成への一礎石……………六六〇—六八三頁

——エンゲルス「経済学批判大綱」研究序論——

市原亮平 日本人口論小史……………六八四—七二四頁

——その特質と原型に関する周辺の考察——

第五卷 第一号 (昭和三十年四月)

(経済史研究)

矢口孝次郎 初期独占における「収益特権」……………一—二六頁

宮下孝吉 三十年戦争の経済史的意義……………二七—四四頁

荒井政治 十八世紀におけるイギリス産業資本家の政治的抬頭……………四四—五九頁

鑄方貞亮 本邦古代禱作考……………六〇—九六頁

津川正幸 近世灌漑水利に関する一、二の史料……………九七—一三三頁

第二号 (昭和三十年五月)

賀屋俊雄 仏領時代に於ける印度支那鉱産事情について……………三三—三六頁  
 東井正美 合衆国における南北戦争以降の「農業機械革命」の意義……………二五—二九頁  
 柏尾昌哉 カツオ専業漁業とマグロ専業漁業の生起……………一五—二三頁  
 —日本におけるカツオ・マグロ漁業の発展(1)—……………  
 高堂俊弥 戦後のわが国における経営労資関係論の潮流(1)……………三四—三五頁

第三号 (昭和三十年六月)

松原藤由 国民経済の体制的変動と経済政策の質的転換……………二五—二九頁  
 市原亮平 日本人口論小史(II)……………二四—二七頁  
 —社会有機体説、社会ターウィニズムの日本イデオロギー化(1)—……………  
 柏尾昌哉 カツオ漁業とマグロ漁業の冲合化……………三六—三九頁  
 —日本におけるカツオ・マグロ漁業の発展(2)—……………  
 津川正幸 近世における大和北山郷の村落構造と林業(一)……………三〇—三九頁

第四号 (昭和三十年七月)

今西庄次郎 株式利廻と株価収益比率……………四二—四七頁  
 —株式価格の当否を判断するものとして—……………  
 越後和典 戦後日本造船業の変遷とその特質……………四六—四九頁  
 —計画造船政策をめぐって—……………  
 市原亮平 日本人口論小史(II)……………四〇—四九頁  
 —社会有機体説、社会ターウィニズムの日本イデオロギー化(2)—……………

高堂俊弥 戦後のわが国における経営労資関係論の潮流(Ⅱ)…………… 究一—三三頁

第五号 (昭和三十年八月)

山崎紀男 S小売市場の実態分析…………… 三三—三六頁

市原亮平 日本人口論小史(Ⅱ)…………… 五七—五〇頁

——社会有機体説、ターウイニズムの日本イデオロギー化(3)——

来住哲二 輸出業者の立場より見たる商業荷為替信用取扱上の問題点(Ⅰ)…………… 六二—六三頁

津川正幸 近世における大和北山郷の村落構造と林業(Ⅱ)…………… 六三—六四頁

第六号 (昭和三十年九月)

杉原四郎 「経済学批判大綱」再論…………… 六四—六五頁

——エンゲルス歿後六十年によせて——

森川太郎 モツセ教授のケインズ評…………… 六六—六八頁

——社会主義的立場からの一批判——

市原亮平 日本人口論小史(Ⅱ)——(4)…………… 六二—七三頁

——第三人口論——「純正」社会主義とその社会ターウイニズム的屈折——

柏尾昌哉 遠洋カツオ・マグロ漁業の成立…………… 七三—七六頁

——日本におけるカツオ・マグロ漁業の発達(3)——

第七号 (昭和三十年十一月)

今西庄次郎 公社債価値論…………… 七九—七四頁

末政芳信 限界原価計算の出発点…………… 七五—七九頁

——ローレンス・ハンフリース共著「限界原価計算論」研究(一)——

来住 哲二 輸出業者の立場より見たる商業荷為替信用取扱上の問題点(二)……………七五—八八頁

川元 英二 終戦後の我が国生命保険事業について……………八九—八九九頁

「関西大学 経済論集」創立七十周年記念特輯 (昭和三十年十一月)

高木 秀玄 労働の生産性測定の基本問題……………一—三〇頁

市原 亮平 人口論対象—方法論序説……………三一—五九頁

三谷 友吉 ロビンソン労働需要論……………六一—八二頁

——雇用理論の学史的 연구の一部——

沢村 栄治 ヴェブレンと教育経済学……………八三—一九九頁

——教育経済学研究の一齣——

杉原 四郎 J・S・ミルと社会主義……………二一—三七頁

——遺稿「社会主義論」研究序説——

鑄方 貞亮 本邦古代粟作考……………三九—四四頁

——特にその由来——

矢口 孝次郎 マニユファクチュア範疇について……………四七—六二頁

荒井 政治 一九世紀イギリスにおける土地経営の典型……………六三—八二頁

東井 正美 一九世紀後半におけるアメリカ南部農村社会層の分化・分解……………八三—一〇四頁

森川 太郎 大戦以後の英国銀行業……………一〇五—一三五頁

——貸出減少の傾向とそれをめぐる問題——

松原 藤由 終戦十ヶ年の日本経済政策の動向……………一三七—一五〇頁

越後 和典 日本造船業の成立と構造……………一五一—一六七頁

宇田米夫

港湾と工業……………二六九—二七〇頁

——大阪港の復興計画を中心として——

第八号 (昭和三十一年一月)

安田信一

経済発展と産業構造……………二四一—二六頁

——アメリカ戦後経済事情に関連して——

東井正美

一経済学史に現れた重農主義の解釈……………一七九—一八九頁

——W・スタアク著 沢村栄治訳「経済学史—社会発展との関連における」——

農業経済学研究  
室(東井・津川)

山村経済の構造……………二〇〇—二六頁

——和歌山県東牟婁郡四村の場合——

第六卷 第一号 (昭和三十一年四月)

正井敬次

英国哲学者の経済論……………一一—三三頁

市原亮平

日本社会政策と人口政策の一交渉……………二四—五頁

——プロシヤ型日本社会政策の諸論点をめぐって——

有田 稔

ケインズ「一般理論」の思想的萌芽……………二〇—三三頁

——「孫の世代の経済的可能性」を中心として——

高本 昇

ロバートソンの所得概念を繞るケインズの誤謬について……………二四—二七頁

——「一般理論」への一註解——

第二二号 (昭和三十一年五月)

松原藤由

日本産業政策の基本的課題……………一三一—三三頁

越後和典

日本造船業の史的分析……………三三—四四頁

——日本造船業の成立と構造(二)——

経済学会資料室

わが国におけるマックス・ウェーバーの文献目録……………一四一—一七三頁

第三号

(昭和三十一年六月)

高木秀玄

生産費指数についての若干の考察……………一七三—一九頁

高本昇

経済成長と経済厚生に関する一試論……………二〇〇—二二六頁

津川正幸

近世灌漑水利に関する研究(其の一)……………二二七—二五五頁

——河内国大和川左岸王水碓組の場合——

第四号

(昭和三十一年七月)

杉原四郎

わが国のスミス研究史に関する覚え書……………二七—二五五頁

——『本邦アダム・スミス文獻』読後感——

東井正美

一九世紀末合衆国借地諸関係発達の歴史的意義について……………二九六—三三三頁

佐藤博

社会主義における租税(一)……………三三三—三四三頁

——F. Holzman: Soviet Taxation を中心として——

重田晃一

恐慌の週期性に関するA・ベナリの見解……………三四三—三四六頁

第五号

(昭和三十一年九月)

高木秀玄

ヒックスの物価指数理論……………三六一—三〇頁

——消費者余剰と物価指数——

市原亮平

日本社会学派と社会政策学派……………三六一—四〇九頁

——日本人口論史(続)——

津川 正幸 近世の木頭林業…………… 四〇—四二頁

佐藤 博 社会主義における租税(二)…………… 四三—四七頁

——ソ連邦「取引税」の本質をめぐって——

第六号 (昭和三十一年十月)

沢村 栄治 教育費用分析の展開過程(一)…………… 四七—五〇頁

——教育経済学研究の一齣(その二)——

東井 正美 十九世紀末合衆国借地諸関係の発達…………… 五〇—五四頁

——その歴史的意義に関する覚書——

荒井 政治 イギリス初期地方銀行の成立について…………… 五五—五八頁

矢口 孝次郎 イギリス毛織物工業史に関する研究文献の概観…………… 五七—五〇頁

第七号 (昭和三十一年十一月)

(ミル生誕百五十年記念)

杉原 四郎 ミルの年譜とそれに関する一註釈…………… 五九—六〇頁

——ミルにおける社会主義の問題——

東井 正美 ジェ・エス・ミルの農業問題…………… 六一—六九頁

経済学会資料室 ジョン・ステュアート・ミル文献目録…………… 六一—六〇頁

R. M. MacIVER Mill, on Liberty. (Discussion)…………… 六一—六四頁

B. Russell

L. Bryson

第八号 (昭和三十一年十二月)

高木秀玄 物価指数と需要分析の若干の問題…………… 六五—七〇頁

——函数論的指数理論の最近の傾向——

越後和典 造船諸資本とその特徴…………… 七〇—七三頁

三谷友吉 ロビンソンの経済学研究における変遷…………… 七四—七五頁

彙報

第七卷 第一号 (昭和三十二年四月)

鑄方貞亮 日本稲の起源について(一)…………… 一一—四頁

——南方伝來說批判——

市原亮平 日本社会政策学派の人口論とその分化(一)…………… 一五—五頁

——統日本人口論史——

沢村栄治 教育費用分析の展開過程(一)…………… 五—八頁

——教育経済学研究の一齣——

越後和典 S. Pollard, Laissez-Faire and Shipbuilding に就いて…………… 八—九頁

——造船業に関する外国文献紹介 その一——

第二号 (昭和三十二年五月)

三谷友吉 ロビンソンと貧困化の問題…………… 九—三頁

市原亮平 日本社会政策学派の人口論とその分化(一)…………… 三四—三七頁

——統日本人口論史——

第三号 (昭和三十二年六月)



正井敬次

貨幣資本における利子発生の根拠

一八九—二三頁

沢村栄治

Research Load

二三—四四頁

——その教育経済学的分析へのひとつの接近——

東井正美  
越後和典

一九世紀中葉におけるアメリカ土地問題  
アメリカにおける反トラスト政策の基本的性格

二四—三七頁  
二七—二九頁

第 四 号

(昭和三十三年七月)

高木秀玄

指数の連続性についての若干の問題

二五—三七頁

三谷友吉

ロビンソンと利潤率低下の法則

三八—四四頁

浜田文雅

R・ロワの「計量経済学要講」について

四六—五三頁

市原亮平

わが国のマルサス研究史

五四—六九頁

第 五 号

(昭和三十三年八月)

沢村栄治

Teaching Load (一)

五九—六六頁

——教育経済学研究の一齣——

高木秀玄

指数の連続性についての若干の問題 (二)

四七—四七頁

——ユー・ポー・セン教授の所説を中心にして——

上田昭三

課税と貯蓄

四七—四九頁

——N・カルドア「支出税」について——

第 六 号

(昭和三十三年九月)

荒井 政治	パイパウダー（泥足）裁判所について……………	四九七—五〇四頁
東井 正美	合衆国黒人解放運動における土地再分配と民族自決権……………	五五—五九頁
経済学会資料室	——ハリー・ヘイウッド著「黒人解放」一九四八年刊の紹介——	………
	マルサス文献目録……………	五二—五四頁

第七号 (昭和三十三年一月)

越後 和典	紡績業におけるカルテル及びトラストの形成 (一)……………	五九五—六三頁
重田 晃一	初期マルクスと青年ヘーゲル派……………	六四—六九頁
	——初期マルクス研究に関する一展望——	………
浜田 文雅	消費者行動の計量分析への若干の考察……………	六〇—六五頁
鶴嶋 雪嶺	N. M. Robertson, "South Africa, economic and political aspects"……………	六六—七三頁
木村雄二郎	M・ドップの自由制社会主義論批判……………	七二—七六頁
	——A Review of the Discussion concerning Economic Calculation in a Socialist Economy, 1953 を中心として——	………

第八号 (昭和三十三年四月)

越後 和典	紡績業におけるカルテル及びトラストの形成 (二)……………	七〇—七五頁
山本 繁綽	ドル不足期におけるトラレスフアー問題……………	七五—七六頁
	——ポラックのメカニズムの一つの応用として——	………
鶴嶋 雪嶺	J・ロビンソンにたいするR・L・ミークの批判の有効性について……………	七七—八〇頁
市原 亮平	——マルクス経済学からケインズ経済学への接近に関する考察(1)——	………
	平凡社「人口大事典」……………	八一—八六頁

第八卷 第一号 (昭和三十三年九月)

市原亮平 日本政策主体論序説…………… 一—元頁

——戦後人口政策の主体としての国家構造論——

矢口孝次郎 マグナ・カルタの時代における王の財政と課税…………… 三〇—三三頁

荒井政治 フランス革命における保護主義…………… 三六—四四頁

吉田静一 近世隠岐水産業に関する覚書…………… 八五—一三頁

第二・三合併号 (昭和三十三年十一月)

津川正幸 日本稲の起原について (一)…………… 二二—二四頁

——南方伝來說批判——

高本昇 生産性分析の理論的基礎をめぐって…………… 二五—三五頁

浜田文雅 労働需要のメカニズム…………… 三六—四五頁

戒田郁夫 サー・ジェームズ・ステュアート…………… 四六—五二頁

——その人と時代背景を中心として——

越後和典 S. Pollard, British and World Shipbuilding 1890-1914;…………… 四七—五三頁

A Study in Comparative Costs……………

——造船業に関する外国文献紹介 その二——

第四号 (昭和三十三年十二月)

三谷友吉 ロビンソンの動態理論…………… 三三—三五頁

——とくに恒常的蓄積のモデルを中心として——

吉田 静一	フランス革命における保護主義(二)……………	三三—三七頁
東井 正美	アメリカ農民と第三党運動……………	三七—三九頁
	——ポピュリストの運動の性格規定——	
佐藤 博	エヌ・リュビモフ著「資本主義国家財政学」……………	二六—二六頁

第五号 (昭和三十四年一月)

高木 秀玄	ヒックスの物価指数理論(その二)……………	三〇—三五頁
吉田 静一	フランス革命における保護主義(三)……………	三六—三六頁
木村雄二郎	いわゆる「経営者革命論」について……………	三七—三七頁
	——C・A・R・クロスランドの所説を中心として——	
浜田 文雅	労働需要の構造分析……………	三七—四九頁
	——仮説の説定と予備的計測——	
山本 繁綽	国際貿易理論におけるリニア・プログラミングの適用に関する覚書……………	四〇—四三頁

第六号 (昭和三十四年二月)

森川 太郎	金融の正常化と銀行機能……………	四五—四五頁
市原 亮平	移民母村の漁業構造と人口問題……………	四六—四七頁
	——和歌山県東牟婁郡太地町の実態調査報告(1)——	
高本 昇	経済成長とイレフレーション……………	四五—四八頁
重田 晃一	初期マルクスの一考察……………	四九—五五頁
	——経済学批判への端緒としての「ジュームズ・ミル評註」を中心として——	
経済学会資料室	リカアドオ文献目録……………	五七—六〇頁

第九卷 第一号 (昭和三十四年四月)

杉原四郎 ミルの利潤起源論分析序説…………… 一一六頁

津川正幸 近世における廻船に関する若干の資料…………… 一七一至頁

鶴嶋雪嶺 後進国の経済成長にたいする分配論的考察について…………… 一七一至頁

重田晃一 福井孝治著「経済学の基礎にあるもの」…………… 一七一至頁

吉田静一 アンドレ・ピエートル「マルクス体系の再検討」…………… 一七一至頁

浜田文雅 "An International Comparison of National Products and the Purchasing Power of Currencies" O.E.F.C Paris, 1954…………… 一八一至頁

第二号 (昭和三十四年六月)

荒井政治 イギリス会社企業の萌芽…………… 一九一至頁

——初期ステュアートのカンパニー・ブームを中心として——

鯨江城夫 企業論における社会的責任の限界…………… 一九一至頁

佐藤博 ソ連邦における所得税制度の発展…………… 一九一至頁

山本繁緯 経済成長理論における均衡成長の安定性について…………… 一九一至頁

市原亮平 経済史観的人口論の一方…………… 一九一至頁

——シドニー・クワンツ「人口理論と経済的解釈」——

鶴嶋雪嶺 エリック・H・ジャコビー著 井上嘉丸・滝川勉訳「東南アジアの農業不安」…………… 二〇一至三頁

第三号 (昭和三十四年九月)

松原藤由 現段階における経済政策の特質……………三三—三四頁

——特に産業構造と経済政策——

杉原四郎 ミルの利潤起源論分析……………三三—三五頁

市原亮平 貧困学と三派の人口論……………三三—三四頁

——続日本人口論史——

津川正幸 江戸時代漁業に関する若干の史料……………二八—三三頁

——阿波国板野郡里浦を主として——

三谷友吉 J・M・ギルマン「利潤率の低下」……………三三—三三頁

### 第四号 (昭和三十四年十二月)

越後和典 「現代資本主義」論についての覚え書……………三三—三四頁

——資本主義の全般的危機論(1)——

重田晃一 『ドイツ、イデオロギー』と疎外の理論……………三五—三五頁

——『ドイツ・イデオロギー』研究序説——

鶴嶋雪嶺 後進国の経済発展と農地改革……………三六—三九頁

鯨江城夫 アーウィック「二十世紀におけるリーダーシップ」……………三九—四〇頁

山本繁綽 ジョンソン「国際貿易と経済成長」……………四〇—四六頁

### 第五号 (昭和三十五年二月)

津川正幸 近世中期の樽廻船輸送の動向(その一)……………四九—四九頁

越後和典 「現代資本主義」論についての覚え書……………四九—四七頁

——資本主義の全般的危機論(2)——

浜田文雅 投入規模の経済性と操業時間との選択……………四七一—五〇〇頁

神保一郎 T・C・クープマンズ著 「経済科学の現状に関する三つの論文」……………五〇一—五〇四頁

守谷基明 ボウルディング著 「経済政策原理」……………五五—五三三頁

第六号 (昭和三十五年三月)

森川太郎 経済発展と資金供給……………五三四—五五六頁

赤羽豊治郎 独逸経済学における国民経済の意味……………五七—五七六頁

安田信一 投資・貯蓄の均等と企業の自己金融率……………五七—五七六頁

杉原四郎 J・S・ミルの初期の人口思想……………六六—六五八頁

有田稔 A・H・ハンセン著「貨幣理論と財政政策」批判を通じての有効需要養成に関する一試論……………六五—六八〇頁

山本繁緯 — 第三有効需要論のうち — 技術の進歩と比較生産費説……………六八一—七〇〇頁

第十卷 第一号 (昭和三十五年七月)

三谷友吉 ロビンソン資本蓄積論の研究(1)……………一一—一八頁

杉原四郎 J・S・ミルの企業者論……………一九—三七頁

神保一郎 S・i・カス著「リニア・プログラミング方法と応用」(1)……………三六—四九頁

津川正幸 三木与吉郎編 阿波藍譜(栽培製造篇)……………五〇—六〇頁

経済学会資料室 スミス文献目録……………六一—二三頁

第二号 (昭和三十五年九月)

市原亮平 移民母村の漁業構造と人口問題……………二三一—二六頁

——和歌山県東牟婁郡太地町の実態調査報告(2)——

佐藤博 「不均衡予算論」に関する一考察……………二五九—二六頁

——J. Burkhead, I. H. Kimmelの所説を中心として——

浜田文雅 企業行動の市場条件格差(産業内規模間)測定のための一つの試み……………二七—二八頁

重田晃一 H・ルフューヴル著『カール・マルクス』……………一八六—一九六頁

——「その思想形成史」——

経済学会資料室 スミス文献目録……………一六八—二四頁

第三号 (昭和三十五年十一月)

三谷友吉 ロビンソン資本蓄積論の研究(2)……………二五—二七頁

有田稔 利潤と有効需要(その1)……………二四—三〇頁

——投資乗数理論批判——

原田聖二 W・K・シヨルタン著『イギリスの博愛主義』について……………三二—三六頁

吉田静一 柴田三千雄『フランス絶対王政論』……………三七—三七頁

第四号 (昭和三十五年十二月)

荒井政治 一八世紀イギリスにおける会社企業の発達……………三九—六七頁





THE KEIZAI RONSHU  
THE ECONOMIC REVIEW  
OF  
KANSAI UNIVERSITY

VOLUME I ~ X

1950 ~ 1960

THE ECONOMIC SOCIETY OF KANSAI UNIVERSITY  
OSAKA, JAPAN